

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金・・・3月31日 中間配当金・・・9月30日
公告方法	電子公告 http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777 (通話料無料)

- (注) 1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

KANEKA



株主のみなさまへ

株主のみなさまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素のご支援に対し心から厚くお礼申し上げますとともに、ここに当社グループの平成21年4月1日から平成21年9月30日までの第86期第2四半期累計期間(上半期)の事業概況につきご報告申し上げます。

リーマン・ショックによる金融危機から1年が経過し、主要国政府による財政出動の結果、世界経済は最悪期を脱する兆しが見えてきたものの、その先行きは依然として不透明で、引き続き警戒が必要な状況にあります。

わが国経済は、4～6月期の実質GDPが5四半期ぶりにプラス成長に転じるなど持ち直しに向いつつありますが、外需と経済対策効果によるところが大きく、内需は依然として弱含みであり、自律的な回復には時間がかかるとみられます。

このような情勢のなか、当社グループは、第24回中期計画を平成21年度の業績目標達成に注力する短期集中型として見直し、本年4月より取り組んでまいりました。当第2四半期累計期間は、すべての事業で前年同期に比し減収となり、製造コストや経費の削減などの収益確保策に努めましたが、各事業とも国内や欧米市況低迷の影響を強く受けました。

この結果、当第2四半期累計期間におけるグループ全体の業績は、売上高は2,018億円と前年同期比18.9%の減収、営業利益は80億円と前年同期比21.1%の減益、経常利益は72億円と前年同期比29.3%の減益、四半期純利益は40億円と前年同期比19.5%の減益となりました。

中間配当金につきましては、1株につき8円とさせていただきます。

未曾有の金融危機は峠を越えたものの、国内や欧米の市況は依然として力強さを欠いております。また、原燃料価格の上昇や円高・ドル安がじわじわと進む一方で、消費低迷から市場の値下げ圧力が強まるなど、企業を取り巻く環境は業績

下振れが懸念される状態となっております。

このような状況下、当社は本年創立60周年を迎えることができました。この機会に、新しい時代が求める新しい価値観をグループ全体で共有し、「変革」と「成長」の実現を目指すため、『長期ビジョン』を策定し、この中で、研究開発型企業への進化、グローバル市場での成長促進、グループ戦略の展開、M&Aの推進などの施策を定めております。これを来年4月からスタートする第25回中期計画に反映し、当社グループ一丸となって、事業構造の変革と新規事業の創出に一層スピードを上げて取り組むとともに、短期的には、各事業の収益確保に全力をあげて取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

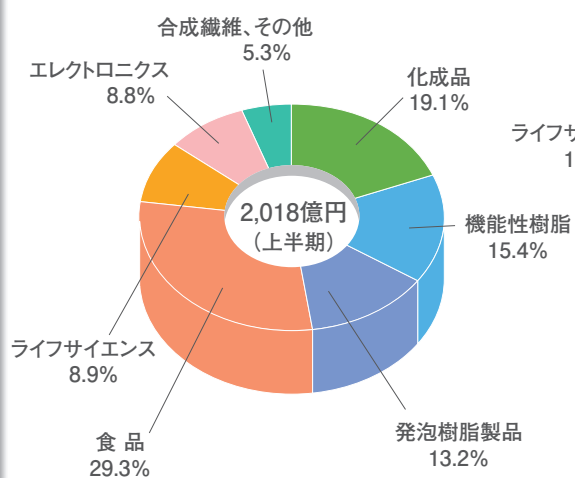


代表取締役 社長 兼原 士郎

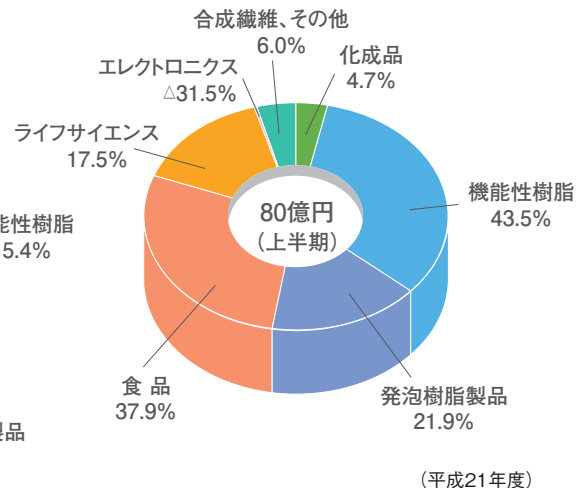
CONTENTS

ごあいさつ	1
事業別の状況	3
財務ハイライト	6
連結決算	7
トピックス	9
カネカグループの概要	11
株式	13
役員・会社の概要	14

事業別連結売上高



事業別連結営業利益



化成品事業

主要製品：塩化ビニール樹脂、塩ビコンパウンド、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂

塩化ビニール樹脂につきましては、中国をはじめとする海外需要が回復基調にある一方、国内需要は低迷し、原料価格上昇に伴う販売価格への転嫁に努力したものの減収減益となりました。塩ビ系特殊樹脂につきましては、国内需要が低調に推移いたしました。か性ソーダにつきましては、海外市況が急落し、国内需要も低迷いたしました。以上の結果、当事業の売上高、利益ともに前年同期を下回りました。



耐熱カネビニール® (塩素化塩化ビニール樹脂) を使用した製品群

機能性樹脂事業

主要製品：モディファイヤー、変成シリコンポリマー、耐候性MMA系フィルム

モディファイヤーにつきましては、アジア市場、欧米市場ともに本格的な回復に至らず、日本市場も低迷し減収となりましたが、原燃料価格の変動に対応した販売価格の修正やコストダウン等による収益体質強化策の徹底により増益となりました。変成シリコンポリマーにつきましては、米国市場が堅調に推移したものの日本・欧州での建築関連需要の不振が響き、減収減益となりました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



ハイパーライト® (改質PET樹脂) を使用したOA部品や炊飯器部材

発泡樹脂製品事業

主要製品：発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン

国内市場の低迷による発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードの販売量の減少に加え、ポリスチレンペーパー等の事業撤退の影響も重なり、減収となりましたが、徹底した製造コストダウンと経費削減に努めました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



テレビの緩衝包装材にも使われているエベラン® (ビーズ法発泡ポリエチレン)

食品事業

主要製品：マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料

当事業につきましては、消費者の節約・低価格志向により、需要が伸び悩むとともに低価格化競争が激化し、販売量・価格ともに下落しましたが、コストダウンと新製品拡販による収益の回復に注力いたしました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



カネカイースト(パン酵母)を使って焼き上げたパン

事業別の状況

財務ハイライト



ライフサイエンス事業

主要製品：医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材、医療機器

医療機器につきましては、血管内治療用のカテーテル類の販売が順調に拡大し、増収増益となりました。医薬バルク・中間体につきましては、販売量が前年同期を下回り、減収減益となりました。機能性食品素材につきましては、高機能品の販売量が増加傾向にあるものの、既存製品の競争激化に伴う販売価格下落と販売量の減少により、減収減益となりました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を下回りました。



EDコイル(塞栓コイル電気式テッチャブル型)

エレクトロニクス事業

主要製品：超耐熱性ポリイミドフィルム、液晶関連製品、複合磁性材料、太陽電池

超耐熱性ポリイミドフィルム・液晶関連製品につきましては、エレクトロニクス製品の市場回復に伴い、販売量は伸びてきておりますが、液晶関連製品を除き前年同期の水準には至らず、減収減益となりました。太陽電池につきましては、欧州での需要低迷により販売量が前年同期を下回り、競争の激化に伴う価格下落も響き、減収減益となりました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回り、利益も大幅な減益となり、採算割れとなりました。



高い熱伝導率を有し、電子機器の熱拡散材料として期待されるグラファイトシート

合成繊維事業、その他事業

主要製品：アクリル系合成繊維(カネカロン)、エンジニアリング業務

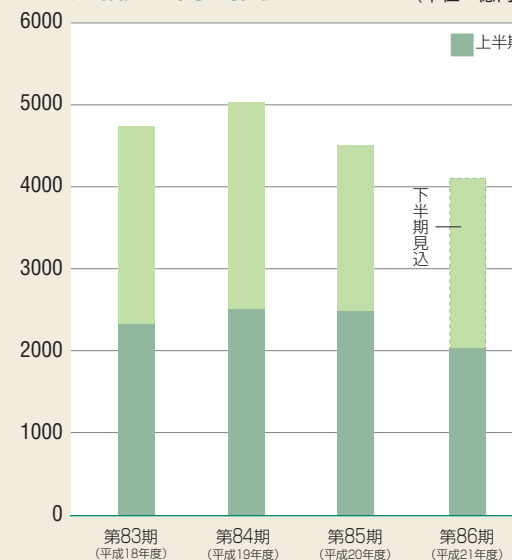
合成繊維につきましては、世界的な景気低迷の影響から海外各市場の需要が低調に推移し、円高の影響も加わって減収減益となりました。また、その他事業も、エンジニアリング子会社の解散決定に伴い減収となりました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を下回りました。



カネカロン®を使用したフェイクファーのコート

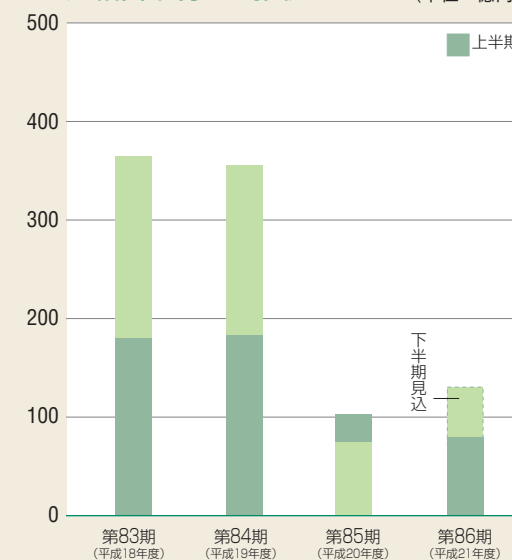
連結売上高の推移

(単位：億円)



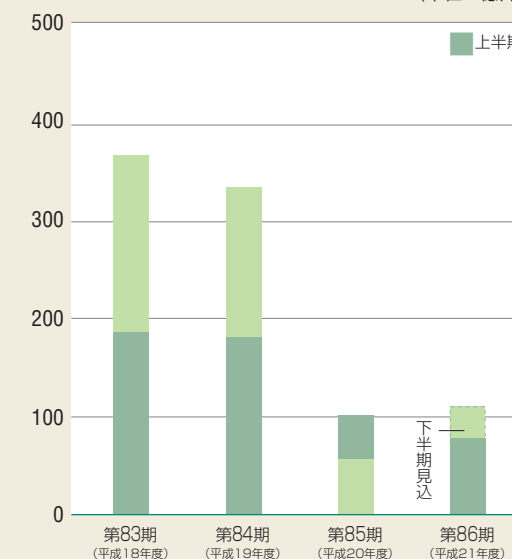
連結営業利益の推移

(単位：億円)



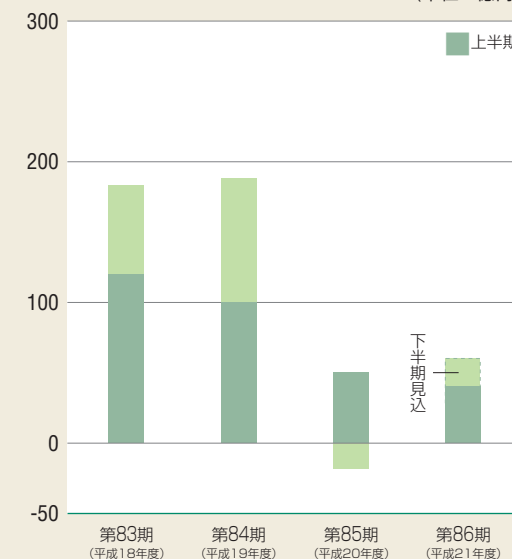
連結経常利益の推移

(単位：億円)



連結当期純利益の推移

(単位：億円)



四半期連結貸借対照表 (第2四半期連結会計期間末)

科 目	第86期	第85期
	平成21年9月30日現在	平成21年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	196,746	192,220
現金及び預金	25,436	24,088
受取手形及び売掛金	89,317	86,807
有価証券	7,322	422
商品及び製品	36,407	39,201
仕掛品	9,554	10,109
原材料及び貯蔵品	18,427	18,222
その他	10,700	13,760
貸倒引当金	△ 419	△ 391
固定資産	225,533	226,269
有形固定資産	161,042	162,336
建物及び構築物	51,836	51,234
機械装置及び運搬具	65,081	65,736
その他	44,123	45,365
無形固定資産	1,996	2,186
投資その他の資産	62,494	61,747
投資有価証券	44,855	39,981
その他	17,962	22,093
貸倒引当金	△ 323	△ 327
資産合計	422,280	418,489

(単位：百万円)

科 目	第86期	第85期
	平成21年9月30日現在	平成21年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	99,190	118,932
支払手形及び買掛金	47,924	43,030
短期借入金	19,307	40,304
未払法人税等	2,918	1,983
引当金	—	72
その他	29,040	33,543
固定負債	68,750	50,027
社債	20,000	5,000
長期借入金	25,021	22,254
退職給付引当金	18,518	18,116
引当金	259	265
負債のれん	951	—
その他	3,998	4,392
負債合計	167,940	168,960
(純資産の部)		
株主資本	247,928	246,656
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,836	34,836
利益剰余金	189,626	188,357
自己株式	△ 9,582	△ 9,583
評価・換算差額等	△ 708	△ 3,351
その他有価証券評価差額金	7,489	4,643
繰延ヘッジ損益	—	1
為替換算調整勘定	△ 8,198	△ 7,996
新株予約権	109	75
少数株主持分	7,009	6,148
純資産合計	254,339	249,529
負債・純資産合計	422,280	418,489

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書 (第2四半期連結累計期間)

科 目	第86期	第85期
	平成21年4月1日～平成21年9月30日	平成20年4月1日～平成20年9月30日
売上高	201,810	248,925
売上原価	151,981	191,907
売上総利益	49,828	57,018
販売費及び一般管理費	41,807	46,857
営業利益	8,020	10,160
営業外収益		
受取配当金	674	726
投資有価証券売却益	—	495
為替差益	—	656
その他	670	821
営業外収益合計	1,344	2,700
営業外費用		
支払利息	489	647
固定資産除却損	609	702
為替差損	318	—
その他	721	1,292
営業外費用合計	2,138	2,642
経常利益	7,227	10,218
特別損失		
投資有価証券評価損	—	1,350
減損損失	—	474
特別損失合計	—	1,824
税金等調整前四半期純利益	7,227	8,394
法人税、住民税及び事業税	1,876	3,808
法人税等調整額	962	△ 521
法人税等合計	2,838	3,286
少数株主利益	400	154
四半期純利益	3,987	4,953

(単位：百万円)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (第2四半期連結累計期間)

科 目	第86期	第85期
	平成21年4月1日～平成21年9月30日	平成20年4月1日～平成20年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,994	9,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,655	△ 14,864
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,384	2,914
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,483	19,496

(単位：百万円)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,790百万円増の422,280百万円、有利子負債残高は8,228百万円減の63,929百万円となりました。また、純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により4,809百万円増の254,339百万円となりました。

●キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等によりプラス30,994百万円、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等によりマイナス11,655百万円、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入の返済等によりマイナス12,384百万円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、32,483百万円となりました。

太陽電池事業、国内住宅市場向け、太陽電池関連部材向けに事業展開を強化 —欧州に研究拠点を設立し、研究開発の更なる強化を図る—

太陽電池事業は、当社の重点戦略分野であり、変換効率12%の薄膜シリコンハイブリッド技術を用いた太陽電池の生産能力を70MW（メガワット）から150MWに引き上げる（2010年稼働予定）などの施策を進めておりますが、今後、次のような新たな事業展開を推進してまいります。

まず、当社独自の薄膜系太陽電池の特長を活かせる平板瓦一体型などの建材一体型製品を中心に、国内住宅市場向けの事業展開を強化していきます。国内住宅市場は、政府の太陽電池設置優遇策もあり、今後、需要の大きな伸びが期待されます。販売体制につきましては、従来から取引のある大手ハウスメーカーへの展開を強化する一方、当社がすでに持っている、カネライトフォーム®等の建築資材の販売ネットワークを活用して、各地工務店等への展開を加速していきます。

第二に、新たに連結子会社となったサンビック(株)との提携を強化し、太陽電池関連部材の事業を積極展開していきます。同社が手掛ける太陽電池向けのエチレン酢酸ビニル共重合樹脂製封止シート（EVAシート）は、太陽電池パネルの裏面を保護するバックシートとして使用されていますが、技術面、品質面でユーザーから高い評価を得ています。これからの太陽電池は、太陽電池セルの性能のみならず、モジュール構成部材の品質アップも重要になるため、グループ会社を含め、太陽電池の技術進歩や構造変化に対応した関連部材の開発をタイムリーに進めていきます。

第三に、欧州における太陽電池の研究拠点として、カネカベルギー(株)に太陽電池研究部門を設置し、日米欧で急激に拡大している太陽電池市場での優位性を確保するため、研究開発の更なる強化を図ります。さらに、単結晶シリコンを中心とした半導体プロセス関連で世界トップレベルの研究機関として知られるベルギー王国のIMEC*と研究委託契約を締結し、本年9月から3年間の共同研究を開始いたしました。IMECの有する薄型の結晶シリコン太陽電池のプロセス技術と、当社の薄膜シリコン形成技術を融合することで、世界最高水準の変換効率（20%以上）の達成を目指してまいります。

*正式名称：Interuniversity Microelectronics Center vzw



平板瓦一体型太陽電池モジュール



平板瓦一体型太陽電池の設置例

生クリームの自然な風味を持つ新たなクリームを開発 —洋菓子用ホイップクリームと調理加工用クリームの本格販売を開始—

当社は、これまで培ってきた高度な乳化技術と、乳本来の自然な風味を保持したまま滅菌する当社独自の『フレッシュAsp製法』により、生クリームの自然な風味と生クリームにはない機能性を付与した新しいクリームを開発し、販売を開始しました。

洋菓子用ホイップクリーム「ラシエンテ®」は、生クリームでは難しい、一度に多量のホイップが可能になり、ホイップ後も黄色く変化したり、硬くなったりすることが少ないという特長があり、冷凍も容易になります。そのため、洋菓子分野で、同じ種類のケーキを大量生産するなどの生産性の向上が期待できます。

調理加工用クリーム「フランジェ®」は、加熱時に褐色に変化することが少なく、また加熱や冷凍による成分の分離も大幅に減少できます。そのため、調理加工分野では、白いクリームシチューやパスタソースなどのレシピを容易に作ることができ、また安定剤が不要なため、乳本来の風味を持つ製品の開発が可能になります。

これらの新商品は、全国5ヶ所で順次開催された『カネカ・食品グループフードフェスタ2009』で紹介され、多くのお客様の関心を集めました。



ラシエンテ®を使用したショートケーキ



フランジェ®を使用したコンソープ

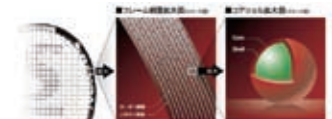
エポキシ樹脂用新規モディファイヤー「カネエースMX」が スポーツ用品用途で採用増

カネエースMXは、エポキシ樹脂中に直径100ナノメートル（ナノは10億分の1）の多層構造を持つ独自開発のコアシェルゴムを配合したエポキシ樹脂の改質剤です。エポキシ樹脂にナノサイズのゴムを均一に分散させることができ、樹脂本来の特性である耐熱性はそのままに、靱性（粘り強さ）や耐久性を大幅に高めることが可能になります。この特長を活かして、テニスラケットやゴルフクラブといったスポーツ用品用途でも使用される炭素繊維複合材料での採用が増えています。

「ダンロップ」ブランドのテニス・ゴルフ用品で有名なSRISスポーツ(株)は、「SRIXON」のゴルフブランドでも有名ですが、テニスブランドとしても展開を図っており、この夏誕生したテニスラケット「SRIXON Xシリーズ」のカーボンフレーム（炭素繊維複合材料）中にカネエースMXが採用されました。パワーを落とすことなく、ボールコントロールの精度を上げていくために、競技者がテニスラケットに求めた、ボールへの「喰いつき」やフレームの「粘り」の実現に貢献しています。



テニスラケット「SRIXON Xシリーズ」フレーム断面とコアシェル構造図（イメージ）
（提供：いずれもSRISスポーツ(株)）



カネカグループの概要

(平成21年9月30日現在)

国内ネットワーク

●化成系

○昭和化成工業(株) ○龍田化学(株)

●機能性樹脂

△セメダイン(株)

●発泡樹脂製品

○北海道カネパール(株)	○ツカサ(株)	○関東スチレン(株)	○宮城樹脂(株)
○北浦樹脂工業(株)	○コートー(株)	○標津化成(株)	○紋別化成(株)
○コスモ化成(株)	○東洋スチロール(株)	○(株)ハネバック	○カネパールサービス(株)
○(株)羽根	○北海道カネカ(株)	○九州カネライト(株)	○カネカケンテック(株)
○三和化成工業(株)	○カネカエペラン販売(株)	○サンポリマー(株)	○(株)ソーラーサーキットの家
△イビデン樹脂(株)	△(株)イーピーイ		

●食品

○(株)カネカフード	○(株)東京カネカフード	○(株)カネカサンスパイ	○太陽油脂(株)
○カネカ食品販売(株)	○東京カネカ食品販売(株)	○東海カネカ食品販売(株)	○九州カネカ食品販売(株)

●ライフサイエンス

○(株)カネカメディックス ○(株)大阪合成有機化学研究所

●エレクトロニクス

○栃木カネカ(株) ○カネカソーラーテック(株) ○サンビック(株)

●合成繊維、その他

○カネカエンジニアリング(株) ○(株)カネカ高砂サービスセンター □カネカ保険センター(株)

海外ネットワーク

●ヨーロッパ

○カネカベルギーN.V. ○カネカファーマヨーロッパN.V.

●アメリカ

○カネカテキサスCorp.	○カネカニュートリエントL.P.	○カネカアメリカLLC
○カネカファーマアメリカLLC	○カネカニューヨークホールディングカンパニー, Inc.	○カネカファンクショナルフーズLLC

●アジア／オセアニア

○カネカシンガポールCo.(Pte) Ltd.	○蘇州愛培朗緩衝塑料有限公司	○青島海華繊維有限公司
○カネカマレーシアSdn.Bhd.	○カネカエレクテックSdn.Bhd.	○カネカエペランSdn.Bhd.
○カネカペーストポリマーSdn.Bhd.	□TGAペーストリーカンパニーPty.Ltd.	

○印は連結子会社、□印は非連結子会社のうち主な会社、△印は持分法適用関連会社であることを示します。

連結子会社の数 52社

新たにサンビック(株)を加えました。

持分法適用関連会社の数 3社

グループ会社紹介

【龍田化学株式会社】

〈主な事業内容〉自動車内装用表皮、エンボス加飾シート、軟質塩ビシート、高透明PPシートの製造・販売

〈所在地〉東京都台東区柳橋1丁目3番9号

同社は、1955年(昭和30年)「龍田ゴム興業株式会社」として発足し、1968年(昭和43年)には事業の発展に伴い「龍田化学株式会社」と社名変更し現在に至っています。

同社は、設立当初から雑貨・玩具向けに塩化ビニルシート*1の製造を行ってきた歴史を持ち、1963年(昭和38年)には熱成形(真空成形)しても表面に施されたエンボス*2が残留するシート*1の開発により、日本初となる自動車のインパネ*2用表皮製造を開始しました。その後も自動車内装のドア用表皮用途等に展開し、日本の自動車産業の発展に歩調を合わせるように成長してきました。

現在は、長年にわたり蓄積してきた配合・シーティング技術を活かして、化粧品等の包装材料に利用されるクリアケース・クリアファイル用の高透明ポリプロピレンシートや当社が開発した熱可塑性エラストマー「SIBSTAR[®]」を原料とした耐震マットなどの展開を推進しています。

更に自動車内装表皮の製造により培われたエンボス技術と、高い質感をもったエンボスを自由自在に開発できるエンボスデザイン開発能力を組み合わせ、高質感エンボス加飾シート「ASHELER[®](アシェラ)」「ELMARD[®](エルマード)」を開発・上市しました。このシートの展開にあたっては、継続的に新しいデザインを提案していくことに加え、キーサプライヤーとの協業で、真空成形同時加飾・射出成形同時加飾などの成形技術、ハードコートや接着などの2次加工技術を組合せて、自動車・家電・住宅設備・情報機器分野等でのエンボス加飾市場の創出を推進しています。



転倒防止シート



高質感エンボス加飾シート「ASHELER[®]」

*1: 模様を彫刻したロールを加熱しながら押付けて、紙・布・皮革などの凹凸模様をつけること。

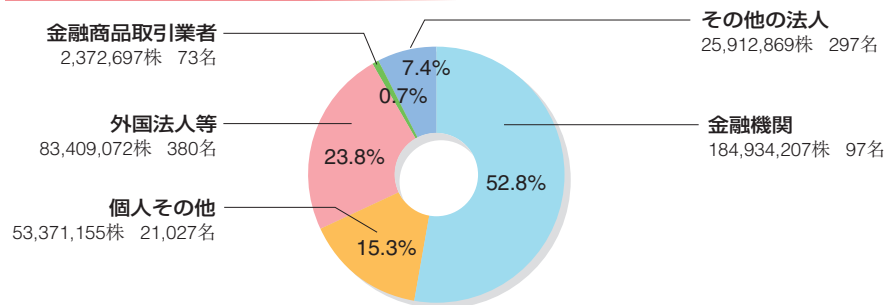
*2: 自動車などの運転席に設けた計器盤

(平成21年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	750,000,000株
発行済株式の総数	350,000,000株
株主数	21,874名
1人あたり平均持株数	16,001株

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,727	6.49
日本生命保険相互会社	18,987	5.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,587	5.02
株式会社三井住友銀行	15,458	4.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	13,674	3.91
明治安田生命保険相互会社	13,125	3.75
三井住友海上火災保険株式会社	12,324	3.52
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,544	3.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,551	2.44
三井物産株式会社	5,543	1.58

(注) 当社は自己株式を10,726千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。
株式数は表示単位未満を切り捨て、比率は小数第三位を四捨五入しております。

(平成21年9月30日現在)

役員

代表取締役会長	武田 正利
代表取締役社長	菅原 公一
取締役 専務執行役員	羽鳥 正俊
取締役 専務執行役員	鈴木 木俊
取締役 専務執行役員	原 哲郎
取締役 常務執行役員	高橋 里美
取締役 常務執行役員	叶 敏次
取締役 常務執行役員	小山野 信哲
取締役 常務執行役員	生野 哲広
取締役 常務執行役員	永野 作茂
取締役 常務執行役員	岸根 正実
監査役(常勤)	乾 佐太郎
監査役(常勤)	井野口 康男
監査役	塚本 宏明
監査役	廣川 浩二
専務執行役員	八田 幹雄
専務執行役員	小倉 健之亮
常務執行役員	梶原 正寿
常務執行役員	中川 雅夫
執行役員	池永 温行
執行役員	松井 英行
執行役員	三瓶 幸司
執行役員	中村 敏雄
執行役員	吉成 亨
執行役員	中村 孝一
執行役員	富田 春生
執行役員	井口 明彦
執行役員	岩澤 哲
執行役員	内田 喜実
執行役員	水澤 伸治
執行役員	上田 恭義

会社の概要

社名	株式会社 カネカ (KANEKA CORPORATION)
本店	〒530-8288 大阪市北区中之島三丁目2番4号 TEL (06) 6226-5050(代表)
設立年月日	昭和24年9月1日
資本金	33,046,774,709円
ホームページ	http://www.kaneka.co.jp/